

今日の説教のポイント <ルカによる福音書 15 章 8～32 節>

①この物語の持つ言葉の力

主イエスが語られたこの物語は多くの人々の心に届いた。この物語の持つ言葉の力を支えておられるのは、主イエスの情熱。神が当たり前とする喜びがある。私どもの理解を超える喜びの祝いが神の中に在る。その喜びを主イエスはどうしてもお伝えになりたかったに違いない。

②父から離れさせたもの

父親に二人の兄弟がいた。二人とも父から離れることで自分らしく生きられると思っていた。その父親との関係をなくしてでも生きていけると思わせたものが財産。弟が求めた財産は元の言葉では物質的財産を意味する。父親が分け与えた財産はいのちを支える力を表す。弟息子はいのちを支える力をすべてお金に換えた。それが自分のいのちを支えると思ったからであろう。しかし、そのことでかえって自分のいのちを失わせることになっていく。弟は自分らしさを求めて旅に出るがそれは自己喪失の旅となる。弟息子は、神を信じない国で、神無しでやっていく国で、命を養う愛に飢えていった。

③我に返る

その時彼は「我に返る」。その言葉の意味は「自分自身の中に戻る」。弟息子は、自分自身を見つめ直す中で、自分が本来どんな存在であるのかを思い起こしたに違いない。父に愛されている自分であることを再発見した。そのように愛してくださる父を父とすること、すなわち神を神として生きる中で、自分が人間として生きることになることを発見する。父の家がなければ生きられない存在であったことに気づくのである。どんな時でも傍らに立ち続けてくださる父を発見したと言っても良い。それが彼を立ち上がらせる、立ち直らせるきっかけとなったのである。